

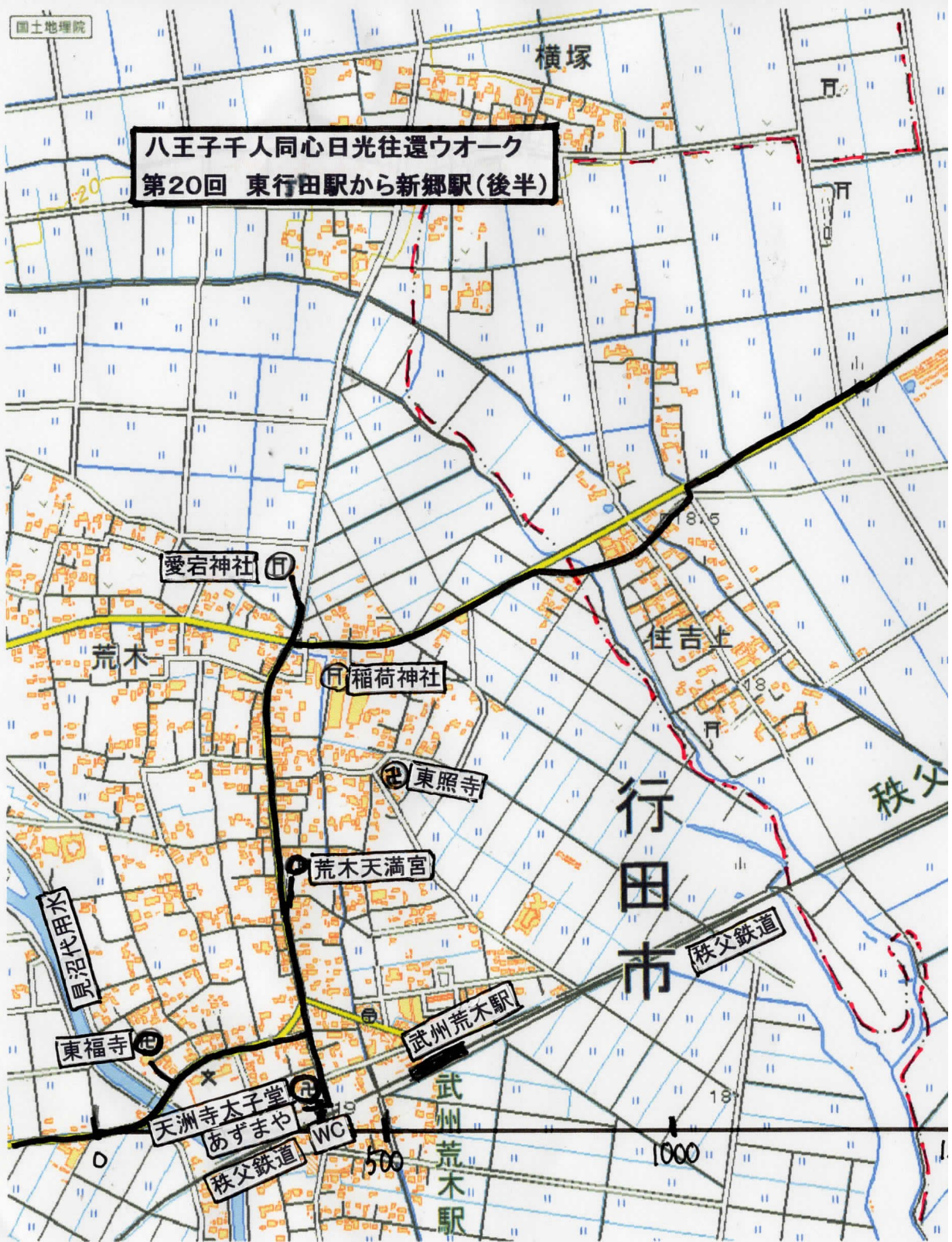
步行距離 約 8.7 km

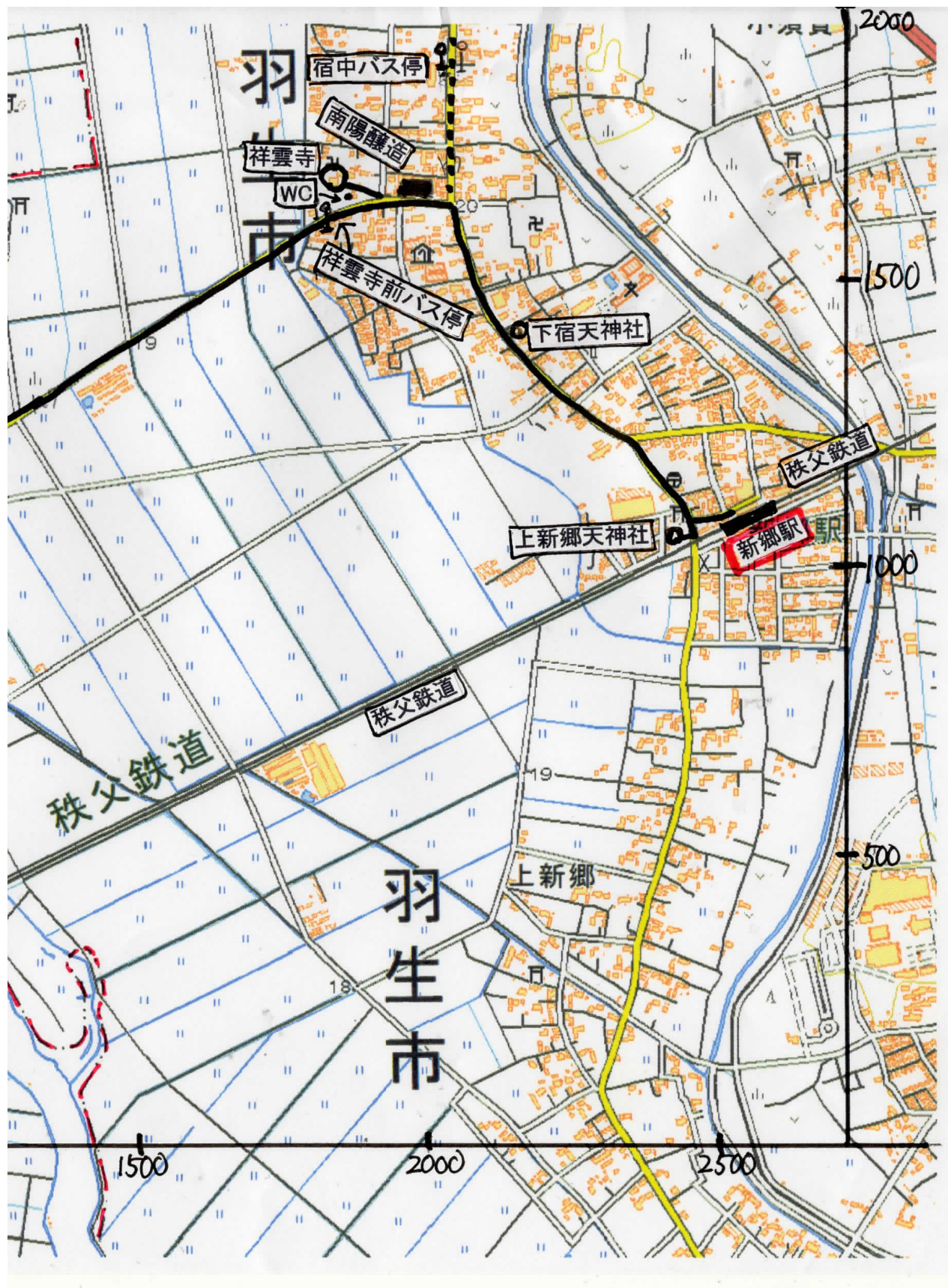
コース 秩父鉄道東行田駅（10：08）～長久寺（10：10～17）～長野久伊豆神社・赤飯稲荷神社（10：21～31）～真観寺・小見真観寺古墳（10：57～11：15）～虚空蔵山古墳（11：17～19）～東福寺（11：30～33）～天洲寺（11：40～12：09）～荒木天満宮～荒木愛宕神社・荒木愛宕神社古墳（12：25～28）～祥雲寺（12：54～58）～南陽醸造（株）～下宿天神社～上新郷天神社～13：12新郷駅
秩父鉄道新郷13：19＝能谷

移動平均速度：3.6km/h。全体平均速度：2.72km/h。



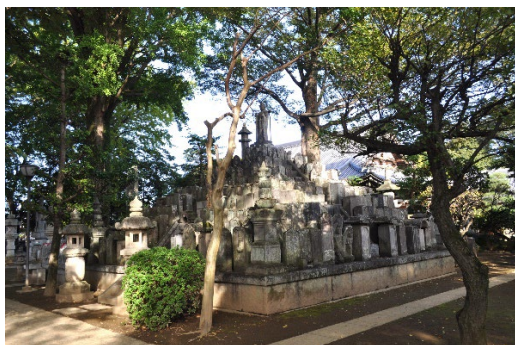
八王子千人同心日光往還ウォーク
第20回 東行田駅から新郷駅(後半)







10時00分の電車で全員が集まったので、10時08分出発。東行田駅を出て県道7号線を左折、直ぐの踏切を渡り30m程の左に「長久寺」がある。(10:10~17)





行田市指定文化財 **長久寺山門**（付（ツケタリ）扁額（ヘンガク））平成21年7月30日指定

この山門は、長久寺の境内南側に位置し、東面を正面としています。本瓦葺（ほんかわらぶき）、切妻造りの四脚門で、本柱桁行寸法3.38m、側柱梁間寸法2.53m、両端に昭和60年に改修された脇扉が附属しています。

山門の建立年代を記す棟札などは発見されていませんが、桃山時代の特色を引き継ぐ建物装飾が見られることや古文書等の記録などから、江戸時代初期の建造と推測されます。

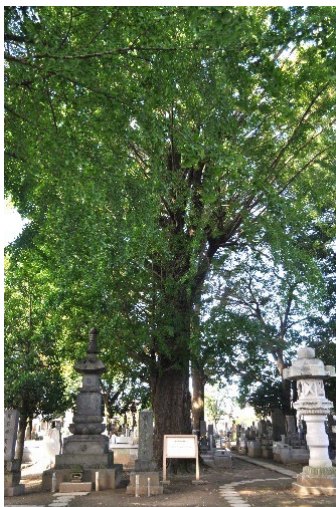
長久寺は、天正18年（1590）の石田三成らの軍勢による忍城攻めのさいに兵火を受けていて、この山門はその復興の際に建てられた可能性も考えられます。

山門の正面には後付けと思われますが、本山智積院第七世能化（のうげ・・注）であった運徹（うんしょう）筆の扁額が掲げられています。運徹は延宝4年（1676）に長久寺に立ち寄っていることから、その折にこの扁額は書かれたものと思われます。

この山門は、江戸時代初期の北関東における寺院建築を知るうえで貴重な建築物であり、一体となっている扁額からも長久寺の格式と本山との関係がうかがえる歴史資料であると言えます。

平成23年 行田市教育委員会

注）能化・・・僧侶社会に於いて、一つの宗派の長老、学頭または最高の地位の人を言う。



行田市指定文化財 **長久寺の公孫樹（いちょう）** 昭和39年1月31日指定

長久寺は文明年間（1469～1478）に忍城主成田顯泰が、忍城の鬼門鎮護のために武運長久を祈願して建立した寺院です。

その長久寺本堂前庭にあるこの巨木は、樹齢300年以上と推定される公孫樹の雄木です。樹高28m、目通り幹周4.4m、根回り7.6mを計ります。

幹がまっすぐに伸びる損傷のない見事な巨木で、樹勢も旺盛で枝は傘状に四方に広がっています。

平成23年

行田市教育委員会

直ぐ隣に「長野久伊豆神社」と境内社「赤飯（しゃくじき）稲荷神社」がある。（10：21～31）



長野久伊豆神社

久伊豆神社は、成田氏十四代下総守顕泰が忍城を築城の際に、鬼門の守護神として長久寺と共に文明年間（1469～1487）に創建したといいます。明治42年に町内の26社を合祀、さらに昭和30年に楯場にあった赤飯稲荷神社を境内に遷座しました。

祭神は、大己貴命、事代主命。

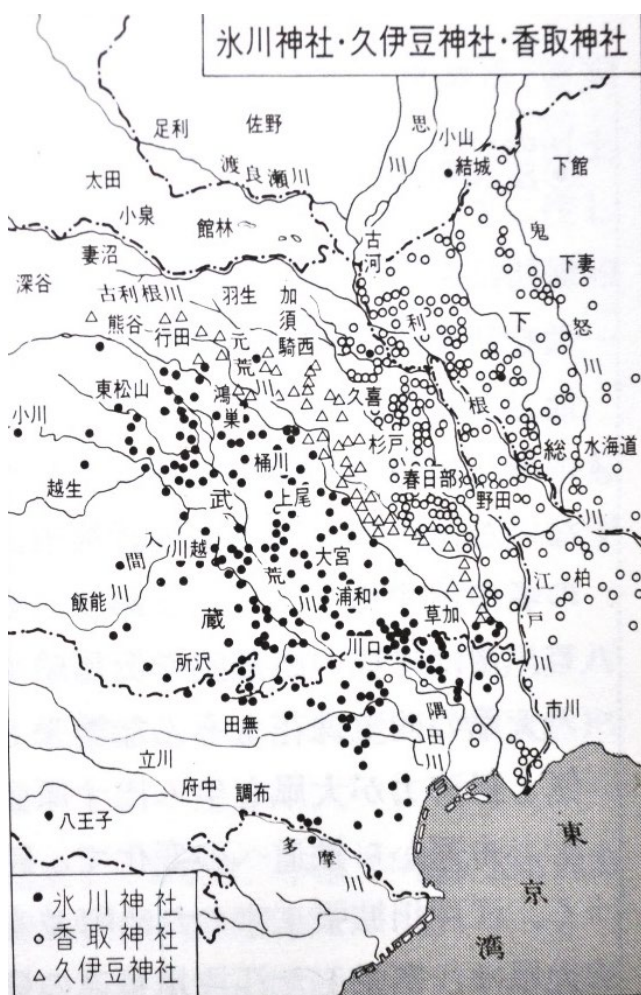
境内 由緒説明板より

久伊豆神社

久伊豆神社の祭神は、素盞鳴尊の子大己貴命である。創建は文明年中（1469～1487）で、成田下総守顯泰（あきやす）が忍城築城に際し、城の鬼門の守護神として当神社を祀り、隣接する長久寺を別当とした。これに合せ、城の裏鬼門の守護神として城の南西大宮口に、やはり久伊豆神社をおいている。

境内には15m四方の枝張りを有する藤があり、市指定天然記念物となっている。(藤にかんしては別の説明板ありここでは略し別途記載する)

なお、本社には市指定書籍の勝海舟書「大幟」原本も保存されている。昭和57年3月



久伊豆神社は埼玉県加須市に鎮座する玉敷神社がかつて「久伊豆神社」と称しており、総社とされている。埼玉県の元荒川流域を中心に分布し、平安時代末期の武士団である武蔵七党の野与党・私市党の勢力とほぼ一致している。

なお、荒川流域には氷川神社、東側の中川流域には鷲宮神社、利根川・江戸川流域には香取神社が多数分布している。

境内 由緒説明板より

行田市指定文化財 「藤 (九尺藤)」 昭和39年1月312日指定

(前略) 久伊豆神社の境内にある目通り 1.3 m、1.5 m 四方の枝張りをするこの藤は、日本特産の野

田藤と呼ばれる品種で、花房が1.5mもある珍しいものです。

この藤の原木は市内長野林地区の堀口家にあった「紫藤庵（しとうあん）の藤」で、江戸時代には忍城主より藤の肥料として搾り粕2俵の下賜があり、藤の保護にあてられていたとの話が伝えられています。

明治維新後にその一部が根分けされて長野橋場地区の赤飯伊奈利社頭に移植され、明治29年に赤飯伊奈利大社が久伊豆神社に合祀された際にこの地に移植されて、現在にいたっています。

毎年5月初旬頃には見事な花を咲かせ、5月4・5日には「藤まつり」が開催されています。

なお、原木は現在若小玉の内田家に移植されて、市指定文化財「紫藤庵の藤」となっています。

平成25年3月

行田市教育委員会



境内に合祀されている赤飯稲荷神社は、由緒は不明。昭和30年に市内長野橋場にあったものを遷座。





久伊豆神社から旧街道は200m程のやすらぎホール行田と先隣のバス会社の間辺りから右斜めに進み、500m程先の信号交差点辺りまで小学校を横切って右斜めに通っていたが、今は消滅している。

また、旧街道は信号交差点から左に入り、右カーブして国道125号線行田バイパスの先のマクドナルドの北角辺りまでを通っていたようだ。

行田バイパスからマクドナルドの先まで、県道7号線の右側には歩道が無いので、マクドナルドの駐車場の中を歩く。



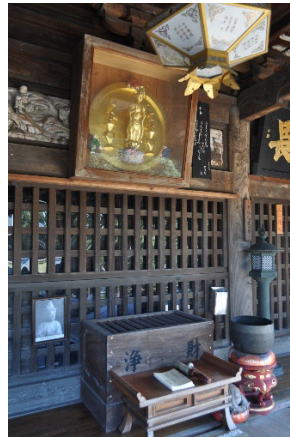
マクドナルドから200m強の右側に「真観寺」の看板がある道に入る。40m程の左手に真観寺がある。(10:57~11:15) 仁王門の奥に観音堂、そしてその観音堂裏手には「小見真観寺古墳」がある。





真観寺

真観寺は、慈雲山福聚院と号し、真言宗智山派の寺院。本尊は聖観音像（埼玉県指定文化財彫刻）。真観寺は瀧憲鏡阿闍梨（仁治3年<1242>寂）が開山となり創建。慶長9年（1604）には寺領10石の朱印状を拝領したという。観音堂の手前には仁王門、裏手には小見真観寺古墳がある。



真観寺聖観音像（掲示板より）

この像103cm、檜材、寄木造の聖観音は、藤原時代末期の典型的な美しさを持つ立像である。

本像は、元来三尊仏の脇侍として造立されたものと思われるが、典雅に整った正統な定朝様を伝えている。その洗練された彫技から推すと中央仏師の手になるものと思われ十二世紀前半から中葉頃の造立と考えられる。

本像に続く作品として、南埼玉郡宮代町西光寺の本尊阿弥陀三尊があり、その脇侍像の本像とは酷似している。

江戸時代、昭和33年の補修は受けているものの、よくその豊かな姿を保っており、市内でも数少ない藤原仏の一つといえよう。行田市教育委員会



小見真観寺古墳（揭示板より）

この古墳は、小見古墳群に属する前方後円墳で、星川の右岸の低台地上に立地している。現存の墳丘の大きさは、全長112mである。埋葬施設は後円部と鞍部付近に緑泥片岩の一枚岩を組み合わせた二ヶ所の横穴式石室がある。こうえんぶの石室は寛永11年（1643）に発見され、前・後室よりなっている。

暗部の石室は、後室のみが現存するが、前室については明らかではない。この石室は明治13年に発掘調査され、衝角付冑、桂甲小札、鉄鏃、金環、頭椎太刀、圭頭太刀、刀子、蓋付有脚銅甕等の副葬品が出土している。出土品は、東京国立博物館に収蔵・展示されている。

これらの副葬品から、この古墳は七世紀前半に築造されたと考えられるが、鞍部石室はやや遅れて造られた可能性がある。

前方後円墳としては最も新しいものであり、さきたま古墳群に後続する首長墓として重要である。

埼玉県教育委員会・行田市教育委員会





後円部



前方部から後円部へ



前方部から鞍部へ



鞍部から後円部へ



前方部



後円部

小見真観寺古墳

墳丘長は112mであり、埼玉県第4位の規模を有する前方後円墳である。主軸は西北西に向かう。封土の左側および前後の頂部はともに削平を受けているが右側の遺存状態は良好である。

墳丘規模

墳丘長は112m。後円部径は55m、高さ7.8m。前方部の幅は48m、高さ7mである。

埋葬施設

後円部と鞍部付近に秩父産の緑泥片岩の一枚岩を組み合わせた2ヶ所の横穴式石室がある。

- 後円部の石室は寛永11年（1634）に発見された。前室・後室の構造で7世紀初めの築造。

前室：全長5.42m、幅2.24m、高さ2.03m。

後室：全長2.62m、幅2.33m、高さ2.02m。

- 鞍部の石室は、後室のみが現存するが、前室については明らかではない。

後室：全長2.8m、幅1.76m、高さ1.12m。

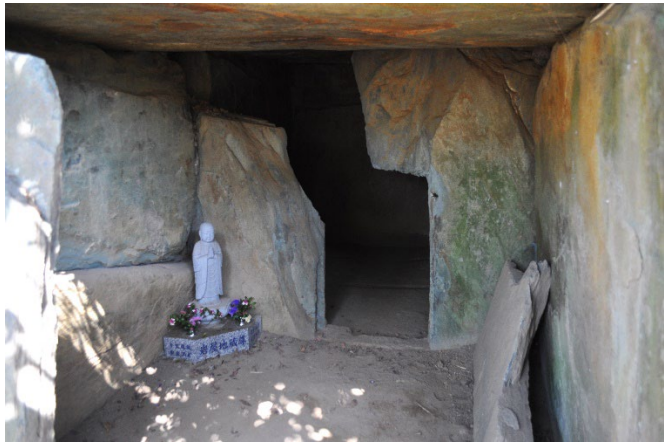
鞍部石室の築造は、出土した副葬品の編年からやや遅れて7世紀の中頃の可能性がある。

出土品

甲冑、刀剣、銅鏡、土器。

後円部の石室





鞍部の石室



鞍部の石室の天井板の石



鞍部から前方部

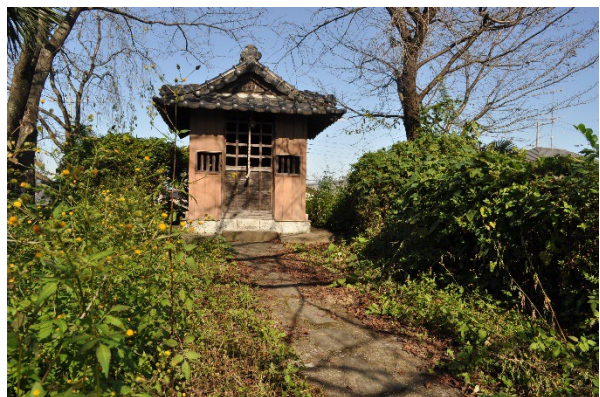


鞍部から後円部

真観寺境内の墓地に沿って県道7号線に出て右折し、100m程の十字路の左先角に「虚空蔵山古墳」がある。(11:17~19)



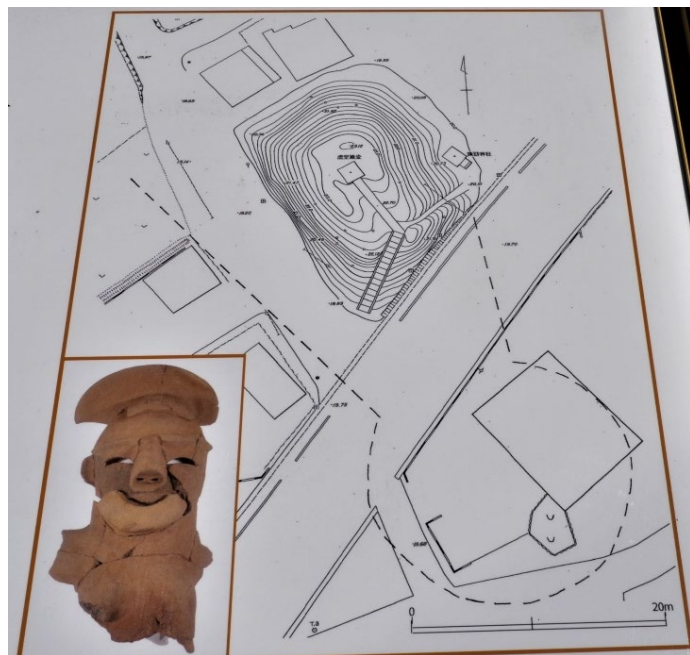
虚空蔵山古墳の前方部



前方部上



削平された後円部跡



虚空蔵山古墳（説明板より）

虚空蔵山古墳は、小見古墳群に属する前方後円墳で、小見真観寺古墳の北西に隣接して位置しています。

残念ながら現在は前方部の墳丘の一部が残るのみですが、平成20年の発掘調査で、後円部と周溝の一部が主要地方道佐野行田線を隔てた南東側で確認され、推定墳長約60mの前方後円墳であったことが明らかになりました。

周溝内から大きな乳房を持った笑い顔の女性の人物埴輪、馬型埴輪、太刀型埴輪、円筒埴輪等の破片が出土しています。

出土した埴輪の形態から、虚空蔵山古墳は小見真観寺古墳に先行して6世紀後半に築かれた古墳であると臣われます。

なお、現存する墳丘は東西26m、南北19m、高さ約3mで、墳頂には虚空蔵山古墳の名前の由来となった虚空蔵菩薩が祀られています。

行田市教育委員会



真観寺境内にある虚空蔵山古墳後円部石室のものといわれる天井板の石

小見真観寺古墳や虚空蔵山古墳がある小見古墳群は、他の「天神山古墳」「籠山古墳」と合わせ、4基の古墳からなっている。

天神山古墳

天神山古墳は、虚空蔵山古墳から北北西に直線距離で約220mのところにある直径20mの円墳である。



天神山古墳

籠山古墳

籠山古墳は、場所は確認出来ていないが、小見真観寺古墳の北隣にあるらしい。直径20mの円墳とのこと。

虚空蔵山古墳がある十字路にの東に斜め北へ行く道が旧街道で、約140m程で再び県道に合流する。



武蔵水路





合流して200m弱で県道306号線と武蔵水路を横切り、武蔵水路から約300mで星川に架かる棒川橋を渡る。〔※ 下見時には星川の手前には歩道が無かったが、今回は新設し、通れるようになっていた。〕

星川を渡ると直ぐ左に「東福寺」がある。(11:30～33) 梅がきれいに咲いていた。



東福寺

東福寺は、真言宗智山派の寺院で、薬王山と号す。僧賢真（天正2年<1574>寂）が開山となり創建した。本尊は大日如来像。



琴平神社

三叉路

途中左手に琴平神社があるが、東福寺から200m程で三叉路となり、街道は左の県道だが、天洲寺の向かうため三叉路を真っ直ぐに進み、40m程で道路に突き当たるので右折。80m程の右側に「天洲寺」がある。(11:40～12:09) あずま屋で昼食をとり、食後、境内を拝観。



天洲寺（境内掲示板より）

天洲寺は、曹洞宗の寺で聖徳山天洲寺と称し、開基は慶長十二年（1607）荒木長善（ちょうぜん）の遺子八左衛門で、開山は清善寺五世天洲全堯（ぜんぎょう）和尚と伝えられている。

荒木長善の祖先は、北条氏の先祖伊勢新九郎長氏と共に関東に下った七人の一人といわれ、子孫代々荒木に居住して、荒木越前と称し、忍城主成田氏に属した。

境内には太子堂があり、堂内には国指定重要文化財である木造聖徳太子立像が安置してある。像高141cm、檜材寄木造りの孝養像で、胎内及び頭部に墨書による銘文が残されている。

それによれば、沙弥西阿弥陀仏が願主となり、二親并舎兄等の往生極樂を祈って慶尊が導師格となり、大仏師慶禅が鎌倉で寛元五年（1247）につくったことが記されている。

銘文中の願主西阿弥陀仏とは、鎌倉幕府の関東評定衆の大江氏毛利四郎季光（としみつ）の法号で、大江広元の四男であり、二親并舎兄とあるのは父母と兄二人と考えられている。



本堂



太子堂



国指定重要文化財 木造聖徳太子立像 昭和十二年五月二十五日指定（境内揭示板より）

天洲寺の木造聖徳太子立像は、用明天皇病氣平癒を願う太子十六才の姿を写した孝養像で、髪をみずらに結い、香炉を持つ姿をしています。寄木造、玉眼、彩色からなり、胎内の墨書銘から、寛元五年（1247）関東評定衆毛利四郎季光（法名西阿弥陀仏）の発願により、大仏師法橋慶禅が鎌倉の地において造像したことがわかっています。季光は、鎌倉幕府確立に功績があった大江広元の四男で、この像の作成目的は、仁治三年（1243）に没した執権北条泰時の往生極楽を願うことにありました。

制作年代のわかるものでは最も古く、作は雄渾無比の鎌倉初期の様式が明確に表れています。運慶様の作風が忍ばれると共に、宋風も表われた優れた孝養像です。

聖徳太子の命日にあたる二月二十二日に、毎年例大祭がおこなわれ、この日には太子像を拝見することが出来ます。 平成七年十二月 行田市教育委員会



三叉路の先の県道7号線に出て直進、北に向かう。県道を650m程北上する（途中、県道の東側に荒木天満宮・東照寺・稲荷神社がある）と県道128号線と合流する交差点があり、街道は右折する。



荒木天満宮



東照寺



稲荷神社

交差点を直進すると左手に愛宕神社がある。(12:25～28)

愛宕神社の社殿は直径20mの円墳「荒木愛宕神社古墳」の上に建てられている。



荒木愛宕神社古墳



古墳正面（南）から



古墳北東から



古墳北から



交差点に戻り左折（県道7号・128号線）し（12：29）、450m程に右斜めに入る道がある。これが旧街道。

旧街道に入って100m弱に小川があるが（12：37）、この小川が行田市と羽生市の境であり、これから利根川を渡るまでが羽生市である。県道から分かれた道は左カーブして進み、300m程で信号がある県道に合流、県道を進む。





この先で羽生市



ここから右の旧街道に入る。



この溝が行田市と羽生市の境

ここで県道と合流。



県道 7 号線に戻り左右全く家屋が無い、遠くまで田畑のみの県道を淡々と歩く。

県道に合流してから930・40m辺りに祥雲寺前バス停がある。『次回は羽生駅から乗ってきたバスでここで下車し、出発する。』

80m程進んだ左側に門前に広い駐車場がある祥雲寺がある。(12:54~58)
祥雲寺は、曹洞宗の寺院で、山号を高木山という。



祥雲寺の隣に南陽醸造(株)の醸造所と店舗がある。創業は万延元年(1860)で南陽醸造の代表銘酒は「花陽浴(はなあび)」で入手が難しいとのこと。正規販売店が全国で15軒程あり、聖蹟桜ヶ丘の小山商店が入っています。

直ぐ先の上新郷交差点を左折すると新郷宿となるのだが、今回のゴールの新郷駅は右折する。



上新郷交差点



上新郷交差点



下宿天神社



上新郷天神社

上新郷交差点から530m程で県道は2本に分かれ（途中左側に下宿天神社がある）、新郷駅へ行くために右の県道196号線を行く。踏切の手前右側に「上新郷天神社」があり、県道を左に渡り直進、60m程で小屋のような新郷駅があり、13時12分、今日のゴール・新郷駅に着く。



13時19分発の熊谷方面影森行きの電車に乗る。

今日は、県道7号線を進み、広大な敷地を持つ寺社、3基の古墳を見て回ったウォークであった。